

あの物語の原点かもしれない

1985年、一冊の近未来小説が誕生し、SF界の権威たるネビュラ賞とヒューゴー賞のW受賞という快挙を成し遂げた。それがオースンスコット・カードのデビュー作『エンダーのゲーム』。SF小説の金字塔である。そのデビューの鮮烈さは、主人公たちの魅力、設定や物語の斬新さにあり、その後シリーズ化され、現在も熱狂的なファンたちによって新作が待たれている。だが、『エンダーのゲーム』が何より人々の心を奪ったのは、その予測不可能な驚愕のラストにあった。いまだかつてない未曾有の裏切りと怒涛のように押し寄せる慟哭…あらゆるクリエイターの羨望を集める瞬間がこの物語にはある。

あなたはきっと、この少年を知っている

COMMENT

ニッポン放送アナウンサー 吉田尚記

「エンダーのゲーム」こそ、アニメです! 「エンダーのゲーム」にはアニメ以外の文化が無視してきた、重要な要素が満載です。「ガンダム」と「エヴァンゲリオン」の共通点といえば、アムロとシンジ。ヒーローになんかなりたくないのに、特別な機体をまかされて、そのパイロットにならなければいけません。この内向的な天才少年が、エンダーでなくて誰なのでしょう。他にも現代に連なる超名作アニメの原点が、続出します。昆虫型異星生命体と戦わなくては行けない「マクロス」的な展開、ゲームの中とその外に物語があるという「ソードアート・オンライン」的な構造、訓練兵たちのドラマは、「進撃の巨人」を思わせます。あ、無重力の訓練なんてところは、訓練兵団の立体機動装置みたいでもあるなあ…!

何より、名作アニメとエンダーのゲームに共通するのは、「それは考えつかなかった! でもたしかにそうかも!」と思わされる大展開! これこそ、アニメの醍醐味じゃないですか!



COMMENT SF翻訳家 大森 望

オースンスコット・カードが短編『エンダーのゲーム』で颯爽とデビューを飾ったのは1977年のこと。この短編をふくらませて85年に刊行されたのが、映画の原作にあたる長編版『エンダーのゲーム』。たちまち絶賛を博し、世界の2大SF賞、ヒューゴー賞とネビュラ賞の2冠を獲得。ゲームというモチーフや、少年が戦争の中でその能力を開花させてゆくストーリーは、『新世紀エヴァンゲリオン』はじめ、日本の様々な作品にも直接間接の影響を与えた。

続編『死者の代弁者』も前作と同じ2冠に輝き、さらに第3部『ゼノサイド』、第4部『エンダーの子どもたち』と出て、エンダーの物語はいったん完結するが、ピンを主人公にしたシャドウ・サーガが99年に開幕。その他、エンダー誕生を描く3部作が12年にスタートするなど、シリーズの既刊は14冊。今後、続巻も予定されている。

『エンダーのゲーム』はいま読み返してもその面白さはまったく衰えていない。現代SFを代表するネオクラシックとして、シリーズの原点として、必読の傑作だ。

(プレス原稿より抜粋)

監督・脚本: キャヴィン・フォード 『ENDER'S GAME』 原作: ハヤカワ文庫 サントラ盤: ランプリングレコーズ 配給: ウォルト・ディズニー・スタジオ・ジャパン © 2013 Summit Entertainment, LLC. All rights reserved.

数量限定!!

◀(秋赤音)描き下ろしレクリアファイル [2大特典付き] 『エンダーのゲーム』特製ピンバッジ▶

前売り鑑賞券・ムビチケカード発売中!

〈一般1,300円/小人800円(税込)〉 〈一般1,400円/小人900円(税込)〉

※いずれも1枚のご購入につき、特典クリアファイルと特典ピンバッジ(1個)をプレゼント。※特典ピンバッジは選べません。※特典はイメージです。現物と異なる場合がございます。※特典は限定品につき、数がなくなり次第終了させていただきます。※前売りの取扱い劇場は公式HPにてご確認ください。



2014年1月18日(土)全国ロードショー

劇場内での映画の撮影・録音は禁止です
 特設ページの情報はこちら
www.eigakan.org
 0120-550098



「僕は、戦いたくない!」

エンダー・ウィツギン、禁断の《サード》の少年戦士。宇宙戦争を終わらせることが、彼の宿命。

伝説の近未来小説——完全映画化!

ハリソン・フォード エイサ・バタフィールド ヘイリー・スタインフェルド ウィオラ・ダイヴィス アビゲイル・ブレスリン AND ベン・キングスレー

エンダーのゲーム

<字幕スーパー版 日本語吹替版>
 原作: ハヤカワ文庫 サントラ盤: ランプリングレコーズ
 配給: ウォルト・ディズニー・スタジオ・ジャパン

2014.1.18
 ENDER.JP

OddLot ENTERTAINMENT

衝撃の結末——伝説的「近未来小説」をついに映画化!

【INTRODUCTION】

近年、日本のサブカルチャー界を席巻する“セカイ系”のアニメ、漫画、小説、そしてゲーム。そのクリエイターたちに多大なインスピレーションを与えた伝説的「近未来小説」が、ついに映画化。宇宙戦争を“終わらせる使命”を背負った孤高の少年のドラマに、この冬、世界が心揺さぶられる。

主人公の名は、エンダー(終わらせる者)——禁断の“サード”として生まれた少年は、その名の通り、圧倒的な軍事力を誇る昆虫型異星生命体フォーミックとの宇宙戦争を終わらせる使命を背負っていた。過酷な訓練と繰り返されるシミュレーション・ゲーム…人類の存亡を託されたその重圧に、少年の心は耐えられるのか? そして、最終戦争の行方は——。エンダーを演じるのは、「ヒューゴの不思議な発明」のエイサ・バターフィールド。彼を支える少女戦士ベトラ役をヘイリー・スタインフェルド(「トゥルー・グリット」)、エンダーの姉ヴァレントイン役をアビゲイル・プレスリン(「リトル・ミス・サンシャイン」)。ハリソン・フォードやベン・キングズレーら豪華アカデミー俳優たちの競演も話題をさらう。監督/脚本は「ウルヴァリン:X-MEN ZERO」の鬼才ギャヴィン・フッド。映像化不可能と言われたカリスマ小説が、ついにスクリーンに登場する。

【KEYWORDS】

- サード(第3子)** 人口の増加により近未来の地球では、第2子までの少子化政策が敷かれている。政府が特別認めた場合のみ第3子の出産を許されるが、それだけ第3子には精神的重圧がかかる。
- 惑星外昆虫型生命体(フォーミック)** 高度な文明を持つ地球外生命体。突如出現し、地球を攻撃。これを第一次太陽系侵襲と呼ぶ。人類は絶滅寸前まで追いやられるが、メイザー・ラッカムの奇策により辛くも撃退。突如退却した彼らの正体は、謎に包まれ、未だ解明されていない。
- 国際艦隊/インターナショナル・フリート(IF)** 地球防衛のために設立された軍組織。養成機関として、戦闘科/バトルスクール、戦術科/タクティカルスクール、指令予科/プレコマンド、航宙科/ナビゲーション、指揮官養成科/コマンドスクール等がある。卒業後は実戦配備される。
- 新世代(ニューカインド)** 既存の兵士とは異なる発想や思考を持った兵士。子供は常識に縛られた大人の想像を超える発想をするところから、地球防衛の最後の希望とみなされている。
- バトルスクール** 第一次太陽系侵襲後、ニューカインド育成の必要に迫られIFが地球軌道上の小惑星帯に設置した戦闘科の訓練基地。世界中から選りすぐれた天才少年・少女が集う。
- モニター** IFが子供の行動の一部始終を監視する装置。首の後ろに設置され多くの端末が脳に直結しており、視界と同時に脳の思考や筋肉の緊張までも監視することが可能。
- 無重力訓練エリア(バトル・ルーム)** バトルスクール内にある実践訓練エリア。無重力状態で戦闘訓練をすることによって、訓練生自身が宇宙空間で実際に体験する平衡感覚を養う。
- 惑星エロス** 対フォーミック戦に備えIFが前線基地を置いた惑星。コマンドスクールがある。質量が非常に重く、反射係数はブラックホールより微かに高いが、太陽光の反射がなければ不可視。
- スターシップ** IFの戦艦。内部に巡洋艦団(クルーザーズ)と戦闘艦団(ファイターズ)を装備。
- MD-500分子分離装置(リトルドクター)** スターシップ装備の物体を分子レベルで破壊する武器。

禁断のサードの少年。

彼は、宇宙戦争を“終わらせる”使命をもって生まれた。

【STORY】

2XXX年、謎の生命体フォーミックの侵襲から、からくも絶滅を免れた人類は、迫り来る第二次侵襲こそ、人類存亡を賭けた最終決戦と覚悟を決め、地球の運命を託す新世代/ニューカインドの戦士の育成を急いでいた。エンダーは優秀な兄姉の存在によって、その頂点に立つ戦争を終わらせる者>と期待され、政府によって誕生を特別許可されたサードの少年。その類まれな戦闘ゲームセンスと出自から、周囲に特別視され、妬みといじめの対象になっていた。来るべき運命の日…地球防衛組織である国際艦隊/インターナショナル・フリートのハイラム・グラッフ大佐の命によって、エンダーが地球を離れ、究極のエリートのみが選ばれる戦闘訓練基地バトルスクールへと送られる日がやって来た。だが、そこでもエンダーは特別な存在だった。実戦さながらの無重力バトル訓練でも連戦連勝、若干10歳にして自分の隊を率い、指揮官となるべく24時間あらゆるプレッシャーにさらされる。エンダーの才能を妬む者からは、卑劣な手段で攻撃され、命のやりとりさえも、訓練の一環だった。だが、地球に残された時間は、あとわずか——グラッフ大佐はついに、エンダーに最後の試練を課す。それは、失敗の許されない艦隊シミュレーション演習。だが、それには、エンダーの心を徹底的に破壊しかねない、衝撃の事実が隠されていた…。



アンドルー・エンダー・ウィギン
エイサ・バターフィールド



非凡な兄と姉の才能を凌駕し、宇宙戦争を終結させるIF指揮官となることを期待され、特別に政府から出産を許可された禁断の第3子。だが、その複雑な生い立ち故に、兄ピーターや級友の妬みの標的となって常に危険と隣り合わせに育つ。内向的な性格ながらも、バトルスクールで才能を開花させ、仲間たちの信頼を勝ち取ってゆく。

ヴァレントイン・ウィギン
アビゲイル・プレスリン



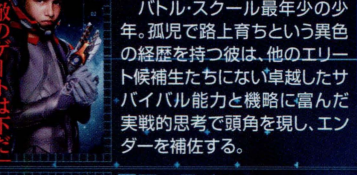
ウィギン家の第2子でエンダーの姉。類まれなる明晰な頭脳に、人の心をとらえて離さないカリスマ性を持つ少女。だが、彼女の欠点は優しすぎる共感力にあり、それが原因で指揮官候補から落とされる。また、その逆で、兄ピーターは残酷な性格ゆえに失格に。そんな兄ピーターの標的となってきたエンダーの唯一の理解者である。

メイザー・ラッカム
ベン・キングズレー



第一次侵襲を撃退した伝説的英雄は、当時13歳のマオリ族のハーブの少年だった。寿命尽き、死んだはずの英雄がエンダーの前に姿を現し、彼の師として艦隊シミュレーションの敵役を務める。謎多き人物。さらに、地球を壊滅状態にし、人類を滅ぼしかけていながら撤退したフォーミックの生息の謎を解く鍵を握る。

ピーン
アラミス・ナイト



バトルスクール最年少の少年。孤児で路上育ちという異色の経歴を持つ彼は、他のエリート候補生たちにはない卓越したサバイバル能力と戦略に富んだ実戦的思考で頭角を現し、エンダーを補佐する。

アーライ
スラージ・パーサ



新入生のなかでも成績優秀で温和なムスリムの少年。彼が不当に嘲笑的となった時、エンダーが彼を助け、孤立させられていたエンダーのバトルスクール最初の友となる。

アンダースン少佐
ヴァイオラ・ダイヴィス



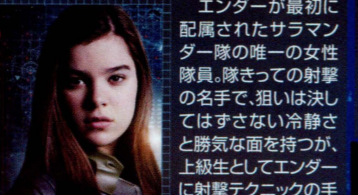
IFの軍事心理学者。IFがすべての子供の行動と思考を直接監視するために埋め込んだモニターで、グラッフ大佐と共にウィギン兄弟の成長を見守ってきた。しかし、彼女はグラッフと異なりエンダーの心の強さに対して懐疑的であり、大佐の性急で常軌を逸したエンダーへのプレッシャーによって、彼が壊れるのではと大佐と衝突する。

ハイラム・グラッフ大佐
ハリソン・フォード



あらゆる面で大人を凌ぐ、ニューカインドと呼ばれる新世代の兵士育成を目的とするIFの戦闘科/バトルスクールの監督官。第2のメイザー・ラッカムを育てることが彼の究極の使命であり、その重責をエンダーに負わせる。そして、自身とはある重大な秘密を胸に秘めながら、情け容赦なくエンダーを戦闘へと駆り立てる。

ベトラ・アーカニア
ヘイリー・スタインフェルド



エンダーが最初に配属されたサラマンダー隊の唯一の女性隊員。隊きっての射撃の名手で、狙いは決してはずさない冷静さと勝負な面を持つが、上級生としてエンダーに射撃テクニックの手ほどきをするなど、面倒見の良い一面もある。艦隊シミュレーション演習では、エンダーから戦闘の要である分子分離装置の操作をまかされる。

「まだ子供なのに…残酷すぎる」

「戦え お前に選択肢はない」

「私は射撃の名手。あなたはそれを学ぶの」

「欲しくなかったんだ」

「私たちは、べたの子供じゃないの」

「敵のゲートは下だ」

「サラーム：友よ」

「フォーミックの謎を解くのは、お前だ」